

「糖尿病患者における運動療法指導の影響」

【研究の目的・意義】

国内の糖尿病患者総数は増加の一途をたどっており、糖尿病患者の高齢化や合併症の進展とともに糖尿病患者における寝たきり総数も増加し、大きな社会問題となってきている。糖尿病治療目標は、糖尿病合併症の発症・進展を阻止し健康な人と変わらない日常生活の質の維持、寿命の確保である。患者の生活様式は多様化しており、患者高齢化もあり患者ライフステージも多様化している。糖尿病治療は、多様化した患者個人を理解し、その生活に寄り添った治療を提案することが重要となっている。

運動療法は糖尿病治療の基本であり、各自の長期に渡る運動習慣を勘案しながら、細やかに個別対応の運動指導を実践継続することが最重要項目の一つとされている。そこで、糖尿病患者における運動指導の代謝への効果と患者背景の関連性について明らかにし、糖尿病患者の健康寿命の延長に結びつく運動療法の重要性を科学的に実証することを目的とする。

本研究によりこれらの事が解明されれば医学的貢献は多大であると考ええる。

【研究対象者】

杉村病院受診している2型糖尿病患者で

- ・登録時に20歳以上の男女
 - ・外来主治医が心肺運動負荷試験（CPX 検査）を提案した患者
- を対象とし、100名を予定する。

除外する対象は、

- ・HbA1c 10.0%以上あるいは空腹時血糖値：250mg/dl以上
- ・糖尿病合併症が不安定期（増殖網膜症・糖尿病性腎症3期以上・糖尿病壊疽など）
- ・労作性狭心症や心筋梗塞・脳卒中急性期・亜急性期など血栓症が強く疑われる
- ・抽出後連続6カ月以上の定期外来受診ができなかった患者
- ・観察期間開始から観察期間終了時まで他疾患も含めた2週間以上の入院歴のある患者
- ・妊娠予定、妊娠中、授乳中の患者
- ・研究責任者が研究への組入を不適切と判断した患者
- ・本病院ホームページ上のオプトアウトで申し出のあった患者とする。

【研究の期間】

2020年7月10日から2024年3月31日まで